

記者発表資料（発表・資料配布）

／日（曜） 時間	担当課	電話	発表者名 （担当係長名）	その他 の 発表 配布 先
5 / 2 4 （木） 14:00	疾病対策課	直通： 078-362-3264 内線：3294	田所 昌也 （西下 重樹）	

県内における風しんの増加について

【概要】

感染症発生動向調査において県下の風しんの届出数が第8週(2月27日～3月4日)から増加傾向にあり、第1週(1月3日～1月9日)から第20週(5月14日～5月20日)における累積届出数が62名と平成20年以降で最大の届出数となっています。

今後、患者の発生が継続するおそれもあることから、特にこれまで風しんにかかっていない方、予防接種を受けていない方や妊娠適齢期の方は注意が必要です。

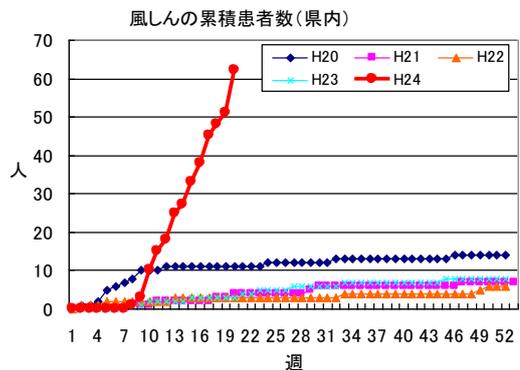
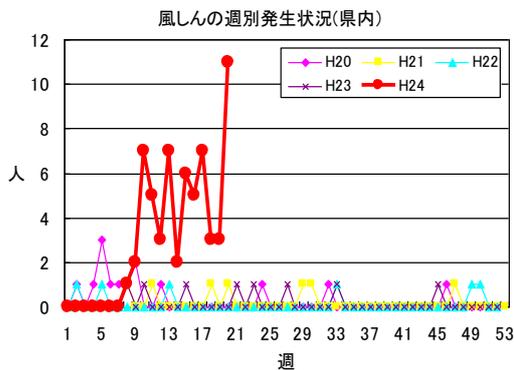
風しんはインフルエンザなどと同じように飛沫感染しますので、県民の皆さまには次のことに注意し感染予防に努めていただきますようお願いいたします。

- (1) 外出後の手洗い、うがい、咳エチケットなどに気をつけましょう。
- (2) 急な全身性の発疹や発熱などの症状が現れたら、早めにかかりつけ医師などを受診しましょう。
- (3) 受診の際には、マスクを着用する、咳エチケットを守るなど、感染を広げないように注意してください。
- (4) 予防接種も効果的な予防策です。  
定期予防接種対象の方は確実にうけていただくとともに、他の方も妊娠適齢期の方や予防接種歴不明の方など必要により、予防接種についてかかりつけ医師にご相談ください。

1 患者届出状況

	県内	全国
平成20年	14件	303件
平成21年	7件	147件
平成22年	6件	87件
平成23年	8件	374件
平成24年	62件※	168件※※

※ 平成24年5月20日までの届出数、※※ 平成24年5月13日までの届出数  
風しんは平成20年より全数届出（それまでは定点把握）



(参考)

風しんについて

- (1) 風しんウイルスが上気道粘膜より排出され飛沫によって伝播され感染します。
- (2) 潜伏期間は、感染から14～21日（平均16～18日）。
- (3) 症状は、突然の全身性の斑状丘疹状の発疹、発熱、耳介後部、後頭下部、頸部リンパ節腫脹を特徴としますが、基本的に予後は良好な疾患です。
- (4) 妊娠初期に風しんに感染すると、風しんウイルスが胎盤を介して胎児に感染し、出生児に白内障、心疾患、難聴などの障害が起こる先天性風しん症候群を発症することがあります。